

基本計画改定の視点(案)

茨木市のみどりの現況、現行計画に基づく取組の成果、みどりを取り巻く状況の変化の把握結果をもとに、基本計画改定の視点（案）を整理。

■茨木市のみどりの現況

■現行計画に基づく取組の成果

■みどりを取り巻く状況の変化

みどりの現況把握結果・要点

茨木市の緑に関する強み

- 市街地から近くに自然環境が存在する、恵まれた地勢
- 地域間を横断して存在する緑資源の存在(安威川、モトイバ、丘陵地など)
- まちと北部の緑の拠点を整備、今後利活用の実践を進める段階
- 協働から共創へ、人を重視した取組展開の素地あり

これまでの取組からみた課題

- 中心市街地や北部地域の緑の拠点づくりを進めた一方で、各地域においては身近な緑は増えていない。
- 市街化が進んだまちなかでは緑の量的確保に限界がある。
- 緑への満足度には地域差があり、市全体では目標に届かず。
- 公園等の施設老朽化や植栽の老木化は今後も進む中で、みどりのストックマネジメントが必要。

みどりを取り巻く状況の変化への対応

- 人口減少時代を背景としたみどりのマネジメント
- みどりが果たす役割への期待の高まりに応え、市民の暮らしにかかわる様々なテーマにいかす視点
- 環境基盤(グリーンインフラ)としての機能を整える
- 「公園を造る」から「使われ活きる公園」へ
- 「人持ち」の考え方を土台に、「共創のまちづくり」へ発展
- ひと中心のまちづくり、生活圏での暮らしの質の向上をめざす

基本計画改定の視点(案)

みどりの現況把握結果・要点

茨木市の緑に関する強み

これまでの取組からみた課題

社会情勢の変化への対応

基本計画改定の視点(案)

“ひと”と“みどり”を“つなぐ”をキーワードに、みどりの質を高め、まちを豊かにする

- みどりの拠点やネットワークの充実により “みどり” と “みどり” をつなぐことで、地域間および地域内での連携や波及効果を生み出す。
- 多様な主体によるみどりの活用の促進により “みどり” と “ひと” をつなぐことで、市民の暮らしにかかわる様々な活動を生み出す。
- みどりに関わる共創の取組の推進により “ひと” と “ひと” がつながり、人持ちで豊かなまちとなることを目指す。
- ひと中心のまちづくりに向けて、生活圏におけるみどりの質の向上を図る。

みどりとみどりをつなぐ

取組のイメージ

- みどりのネットワーク形成
- 山のみどりをまちで感じられる取組
- 既存公園の機能の特化と役割分担

みどりと人をつなぐ

取組のイメージ

- 子育て・教育、健康・福祉、にぎわいづくりなど、市民それぞれの興味関心に応じた緑の活用促進
- 多様化するみどりの役割、市民ニーズに対応した取組

人と人をつなぐ

取組のイメージ

- 共創による取組の推進
- 緑をきっかけとした地域コミュニティ形成
- 社会的つながりやウェルビーイングの向上に寄与する取組

基本的な方針(案) ※次回以降の議事

現行計画における基本的な方針の大枠は踏襲しつつ、改定の視点を踏まえた基本方針、およびこれに基づく具体的な取組内容を検討。

現行計画(中間見直し)における 基本的な方針

(1)市民の生活や様々な都市活動の中で緑を活かしましょう

(2)市民の緑への関心を高めるとともに、多様な主体が緑のまちづくりに関わるようにしましょう

(3)市民の共有の財産として質の高い緑を守り育て、次世代に継承しましょう

踏襲

踏襲

踏襲

基本計画改定における 基本的な方針(案)

「みどりの活用」
に関する基本方針

「共創によるみどりのまちづくり」
に関する基本方針

「みどりの保全・創出」
に関する基本方針

みどりとみどりを
つなぐ

みどりと人
をつなぐ

人と人
をつなぐ

ひと中心のまちづくり・生活圏を意識した
緑のストックの有効活用